

小・中・高等学校時代の座席決めに関する研究

山 田 智 之*

(平成30年3月22日受付；平成30年5月10日受理)

要 旨

本研究は小・中・高等学校の「学級における座席決め」について検討を行ったものである。本研究の調査は、大学生及び大学院生を対象にWEBによる回顧調査によって行われた。本研究の結果、座席決めの方法について、学生は公平性が担保されることを求めているとあり、くじ等の方法を妥当と考えていることが明らかになった。また、自分で意思決定ができない方法を嫌う傾向もあり、小学校・中学校・高等学校における座席決めの難しさが浮き彫りとなった。このことから「学級における座席決め」では、児童・生徒が公平性と居場所を実感できるように工夫することが重要であることが示唆された。

KEY WORDS

座席決め, 公平性

1 問題と目的

仙台市教育委員会（2015）は、座席替えは子どもにとって学校生活を営む上での大きな関心事の一つであり、座席は班編成や毎日の当番活動などの学級組織にも関連するため、担任の教育的な意図が反映されない決め方をすると、人間関係や学級のシステムを不安定にする恐れがあると指摘している。また、和歌山県教育委員会（2016）は、座席替え・班替えは様々な人間関係を体験させることができる機会と述べている。このことから、小・中・高等学校における座席決めは学級内の諸活動の他、人間関係など様々な事柄に影響することが考えられる。また、学級の安定をもたらす場合もあれば、いじめなどの問題を助長させることも予測される。

このような座席替えについて、坂野（2011）は、子どもたちにとってどのような学級で、どのような座席になって、誰と一緒に学習するかは大きな関心事である。したがって、楽しい学校生活にするために、座席を替えてほしいという要求は、子どもたちにとって切実な問題なのである。座席替えの時に重要となるのが、座席決めの方法である。しかしながら、教師は、座席決めについて大学の授業や初任者研修などで学んでいないのが現状であり、教師の子どもたちの体験や先輩教師の座席決めの仕方を、見よう見まねすることで座席決めをしていることが多いと述べている（坂野，2011）。一般に、学級における座席決めは、くじ引きや話し合いなど様々な手法でおこなわれているが、その方法は学年団などの教員の組織や学級担任の裁量によるところが大きい。

座席決めに関して小学生を対象とした研究では、子どもによる子どものためのグループ編成、座席決めが、子どもの「自ら学級をよくしよう」とする意識改革のための大きな力となることを明らかにした実践研究（金子，2009）がある。また、中学生を対象とした研究としては、「仲良い人と一緒に班になりたい」という気持ちの中学生が多かったことから、様々な仲間とかかわりをもてる座席替えをするために、「目の悪い人は前の方になるように、身長を配慮して考える」「班の中にリーダーがいるようにする」「同じ小学校、仲の良い人がかたまらないようにする」「うるさくならないようにする」「男子と女子が隣同士になるようにして、班員の男女バランスがよくなるようにする」というような「出会いのひろがる座席替えのルール」を生徒に作らせる実践研究（田原，2006）がある。これらの研究は、学級経営といった教員としての視点で座席決めを検討していることが特徴である。他方、学生からの視点で座席について検討した研究としては、山口・鈴木（1996）が、大学生を対象に、緊張感に及ぼす座席配置の要因は距離と相手に対して自分がとる位置であること、親密感に及ぼす座席配置の要因は距離と相手と自分との座席の対称性であること、緊張感に及ぼす位置の効果は相手から受ける視線と同一であること、視線に関わらず相手との対称性によって親密感が喚起されることを明らかにし、座席の位置が人間の心理に及ぼす影響を示唆したものがある。

一方、小・中・高等学校生が座席決めをどのように捉えているのかといったことを厳密に調査した研究は希少であ

*学校教育学系

る。この点を明らかにすることは、教師が学級において座席決めをする上で、役立つと考えられる。そこで、本研究は大学生・大学院生を対象に小・中・高等学校在籍時の学級における座席決めについて回顧調査を行い、座席決めの捉え方について、検討することを目的とする。

2 方法

(1) 調査対象と調査方法

関東甲信越及び東海エリアの大学・大学院に在籍する大学生・大学院生250名を対象に2017年11月～12月の間にREAS（リアルタイム評価支援システム）を活用したWEBによる集合調査を行った。被調査者の多様性を確保するために、人文科学系統（文学・史学・哲学・心理学など）、社会科学系統（法学・政治学・商学・経済学・社会学・経営学など）、教育系統（教育学・体育学など）の学部を有する国立・私立大学4校で調査を依頼し、授業及び講義の時間を利用して調査依頼を配布し、その場でスマートフォンなどを活用し回答を得る方法で実施した。調査を行った大学の入学試験の難易度別学校数は、上位校（SS \geq 55）2校・中位校1校（SS \geq 45）・下位校1校（SS \leq 45）であった（晶文社学校案内編集部，2017）。有効回答のあった143名（男子学生：85名，女子学生：58名）の調査対象者の属性は表1に示す通りであり、概ね分析可能なサンプルの代表性が確保された（有効回答率57.2%）。

(2) 調査内容

小・中・高等学校時代の座席決めの方法で「最も印象が良かった座席の決め方」と「最も嫌だった座席の決め方」を「くじ引き」「出席番号順」「先生が決める」「ご対面方式」「登校順」「完全フリー」「その他」の中から選択させ、その理由を文書で回答させた。

座席決めの方法については、東京都の小学校に勤務する教員2名（男性1名，女性1名），中学校に勤務する教員5名（男性3名，女性2名），新潟県の小学校に勤務する教員2名（男性1名，女性1名），中学校に勤務する教員2名（男性2名）から、今までに経験した座席決めの方法、及び、見たり聞いたりしたことのある座席決めの方法について、インタビュー調査を行った結果から「くじ引き」「出席番号順」「先生が決める」「ご対面方式」「完全フリー」「その他」の6つを設定した。

表1 調査対象者の属性

		度数	%
学校段階	大学生	68	47.6
	大学院（修士課程）生	75	50.3
	社会人 大学院（修士課程）生	3	2.1
学部・学科系統	人文科学系統（文学・史学・哲学・心理学など）	20	14.0
	社会科学系統（法学・政治学・商学・経済学・社会学・経営学など）	38	26.6
	教育系統（教育学・体育学など）	83	58.0
	芸術系統（美術関係・デザイン関係・音楽関係・演劇関係・写真関係など）	1	0.7
	総合学際系統（教養学・総合科学・国際関係・人間関係科学など）	1	0.7
性別	男性	85	59.4
	女性	58	40.6
年齢	10歳代	11	7.7
	20歳代	120	83.9
	30歳代	4	2.8
	40歳代	6	4.2
	50歳代	2	1.4
大学・大学院の所在地	関東1（東京都）	33	23.1
	関東2（埼玉県・千葉県・神奈川県）	8	5.6
	甲信越（新潟県・長野県・山梨県）	91	63.6
	東海（愛知県・静岡県・岐阜県）	11	7.7

「くじ引き」とは、「番号カード」や「あみだくじ」等のくじを引くことによって座席を決定する方法である。具体的には「番号カード」等を引き、番号が記入された座席図が示され、座席を決定するなどの方法がある。「出席番

号順」による座席決めとは、出席番号の順番に座席指定される方法である。学級発足時や定期テストの時などに用いられることがある。「先生が決める」とは、教員が児童・生徒の特性を踏まえ座席を決める方法である。「ご対面方式」とは、男女別に座席を相談して決めさせ、一方が決めているときは、もう一方は廊下等に待機し、両者が決まったら対面して座席を決定する方法である。「完全フリー」とは、子どもたちで自由に座席を決めさせる方法である。

「その他」とは、前述の5つの方法以外の座席決めで「登校した順に空いている座席に着席していく方法」「学級委員や班長など、選出された代表者に座席を考えさせ決定していく方法」など様々なものが考えられる。

3 結果

(1) よい印象の座席決めと嫌な印象の座席決め

「最も印象がよかった座席の決め方」において、最も多いものが「くじ引き」であり全体の70%を占めていた。また、「出席番号順」「ご対面方式」「完全フリー」「先生が決める」が各5%でこれに続いた(図1)。一方、「最も嫌だった座席の決め方」では「先生が決める」が36%であり、続いて「完全フリー」が25%、「出席番号順」が14%、「くじ引き」が8%、「ご対面方式」が6%になっていた(図2)。また、「最も印象がよかった座席の決め方」と「最も嫌だった座席の決め方」に相違が認められた($\chi^2=122.898$, $df=5$, $p<.001$)。他方「最も印象が良かった座席の決め方」において性別による相違は認められなかった($\chi^2=3.479$, $df=5$, $n.s.$)。また、「最も嫌だった座席の決め方」においても性別による相違は認められなかった($\chi^2=.622$, $df=5$, $n.s.$)。

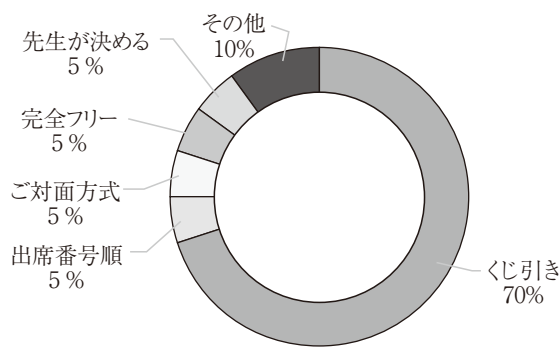


図1 よい印象の座席決めの方法

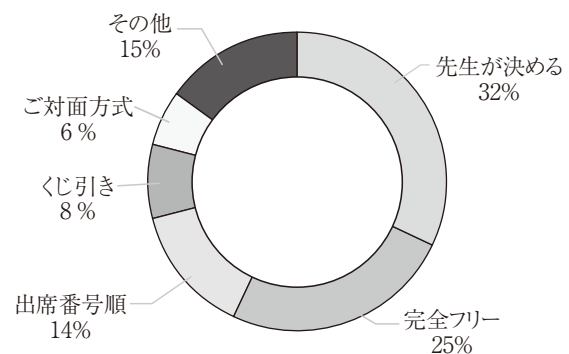


図2 嫌な印象の座席決めの方法

(2) よい印象の座席決めの方法を選んだ理由

文書で回答を得た、よい印象の座席決めの方法を選んだ理由について、テキストマイニングのための分析ソフトウェアであるKH Coderを使用して分析を行った。まず、得られた文書の表現の文体を整え、文脈上意味をもたない言葉を取り除いた。さらに分析対象として適さない品詞(固有名詞, 地名, 人名)を品詞による語の取捨選択のコマンドを用いて除外した。また、テキストデータ中の類似の語を統一した。例えば、「くじ引き」「くじびき」「くじを引く」「クジ引き」「あみだくじ」等の表記は、本調査において同じ意味を持つ語であるため、「くじ引き」という語で統一した。最後に、本調査において複合語として重要な意味を持つ言葉「席」「くじ引き」「完全フリー」「出席番号順」「ご対面方式」「先生が決める」「よい印象」「公平」「いじめ」を強制抽出する語として設定した。

そして、共起ネットワーク¹による分析結果は図3のようになった。次に、図3において強い共起関係(Jaccard $>.20$)を示したもののの中から「よい印象であった座席の決め方を選んだ理由」として重要であると考えられる6要素を抽出した。

- ① くじ引きは公平であるからよい印象である。
- ② 目の悪い人を前にするなどの配慮が必要である。
- ③ 先生が決める方法は、(教員に提出した文書に)書いたことが考慮されている。
- ④ ご対面方式は自分の好きな座席を選べる。
- ⑤ 完全フリーは、生徒同士で納得して座席を自由に決められるからよい。
- ⑥ 文句が言えない。

共起ネットワークによる分析の結果、「よい印象」「くじ引き」「公平」「席」という言葉が強い共起関係を示しており、「①くじ引きは公平であるからよい印象である」と捉えられていることが明らかになった。「くじ引き」による座席決めについて表記のある文書には、「くじ引きは公平性があるから」「くじ引きは公平だから」といった公平感に関わる要素を理由にあげたものがあり、「くじ引き」による座席決めの印象が良かったと思っているもののうち48%を占めていた。また、「くじ引き」に関する表記のある文書に「ワクワクするから」「ドキドキして楽しかったから」といった期待感や高揚感に関わる要素を理由にあげた者は「くじ引き」による座席決めの印象が良かったと思っている者のうち13%であった。

また、共起ネットワークによる分析の結果、「人」「目」「悪い」「前」「配慮」という言葉が強い共起関係を示しており、「②目の悪い人を前にするなどの配慮が必要である。」と考えていることも明らかになった。また、目の悪い人への配慮に関する表記のある文書には、「目の悪い人は申告すれば前といった配慮をしたくじ引き」「目が悪い人等は優先的に前の方へ、その他はくじ引き」といったように「くじ引き」と関連させたものがあり、目の悪い人への配慮が書かれた文書のうち88%を占めていた。

他に、共起ネットワークによる分析の結果、「方法」「先生が決める」「書く」「考慮」という言葉が強い共起関係を示しており、「③先生が決める方法は、(教員に提出した文書に)書いたことが考慮されている」と捉え、学級経営上の教員の意図に関わる要素がよい印象につながっていることが明らかになった。「先生が決める方法」に関する表記のある文書には、「先生が配慮してくれたから」「様々な人間関係を考慮した上で、先生が決めたから」といった学級経営上の教員の意図に関わる要素を理由にあげた者は「先生が決める方法」による座席決めの印象が良かったと思っている者のうち43%を占めていた。

また、共起ネットワークによる分析の結果、「自分」「ご対面方式」「好き」「選ぶ」という言葉が強い共起関係を示しており、「④ご対面方式は自分の好きな座席を選べる」と捉え、自らの意思決定に関わる要素がよい印象につながっていることが明らかになった。「ご対面方式」に関する表記のある文書には「自分の理想の座席を選べるから」「自分の好きな場所を選べるから」といったものがあり、自らの意思決定に関わる要素を理由にあげた者は、「ご対面方式」による座席決めの印象が良かったと思っている者のうち71%を占めていた。また、「ご対面方式」に関する表記のある文書に「隣が誰かわからなくてドキドキするから」といった期待感や高揚感に関わる要素を理由にあげた者が「ご対面方式」による座席決めの印象が良かったと思っている者のうち29%であった。

他方、共起ネットワークによる分析の結果、「よい」「思う」「納得」「生徒」「完全フリー」「同士」「自由」という言葉が強い共起関係を示しており、「⑤完全フリーは、生徒同士で納得して座席を自由に決められるからよい」と捉え、自らの意思決定に関わる要素がよい印象につながっていることが明らかになった。「完全フリー」に関する表記のある文書には「自由に決められるから」「自分たちで仲よい友達同士で座席を決められるから」といった自らの意思決定に関わる要素を理由にあげた者は、「完全フリー」による座席決めの印象が良かったと思っている者のうち75%を占めていた。また、「完全フリー」に関する表記のある文書に「みんなで納得して決めたから」「協議して決めることができたから」「みんなで仲間外れの子が出ないように考えたから」といった話し合い活動による調整的要素を理由にあげた者が「完全フリー」による座席決めの印象が良かったと思っている者のうち25%であった。

また、共起ネットワークによる分析の結果、「文句」「ない」という言葉が強い共起関係を示しており、「⑥文句が言えない」といった非の打ち所がない完全性に関わる要素もよい印象につながっていることが明らかになった。「文句を言えない」に関する表記のある文書には「くじ引きが、公平な決め方だったので文句を言う人はほとんどいなかった」「くじを引いたのは本人であるから文句は言えない」「くじ引きは、全部、運が決めてくれるので文句の言いようがない」といったように「くじ引き」と関連付けたものが、「文句を言えない」ことに関わる表記がある文書のうち100%を占めていた。

次に、共起ネットワークによる分析では明らかにできなかったが、よい印象の座席決めの方法(図1)として、「ご対面方式」「完全フリー」と同じ割合を示したものに「出席番号」による座席決めがある。「出席番号順」に関する表記のある文書には「人間関係を考えず、決められた場所に座るだけなので」「なんの力も働かないため」「全員に対して公平であり、必然性があるから」といった公平感に関わる要素を理由にあげた者は「出席番号順」の印象が良かったと思っている者のうち57%を占め、「時間的ロスが少ないから」といった機能性をあげた者が「出席番号順」の印象が良かったと思っている者のうち29%となっていた。

(3) 嫌な印象の座席決めの方法を選んだ理由

文書で回答を得た、嫌な印象の座席決めの方法を選んだ理由について、テキストマイニングのための分析ソフトウェアであるKH Coderを使用して分析を行った。まず、得られた文書の表現の文体を整え、文脈上意味をもたない

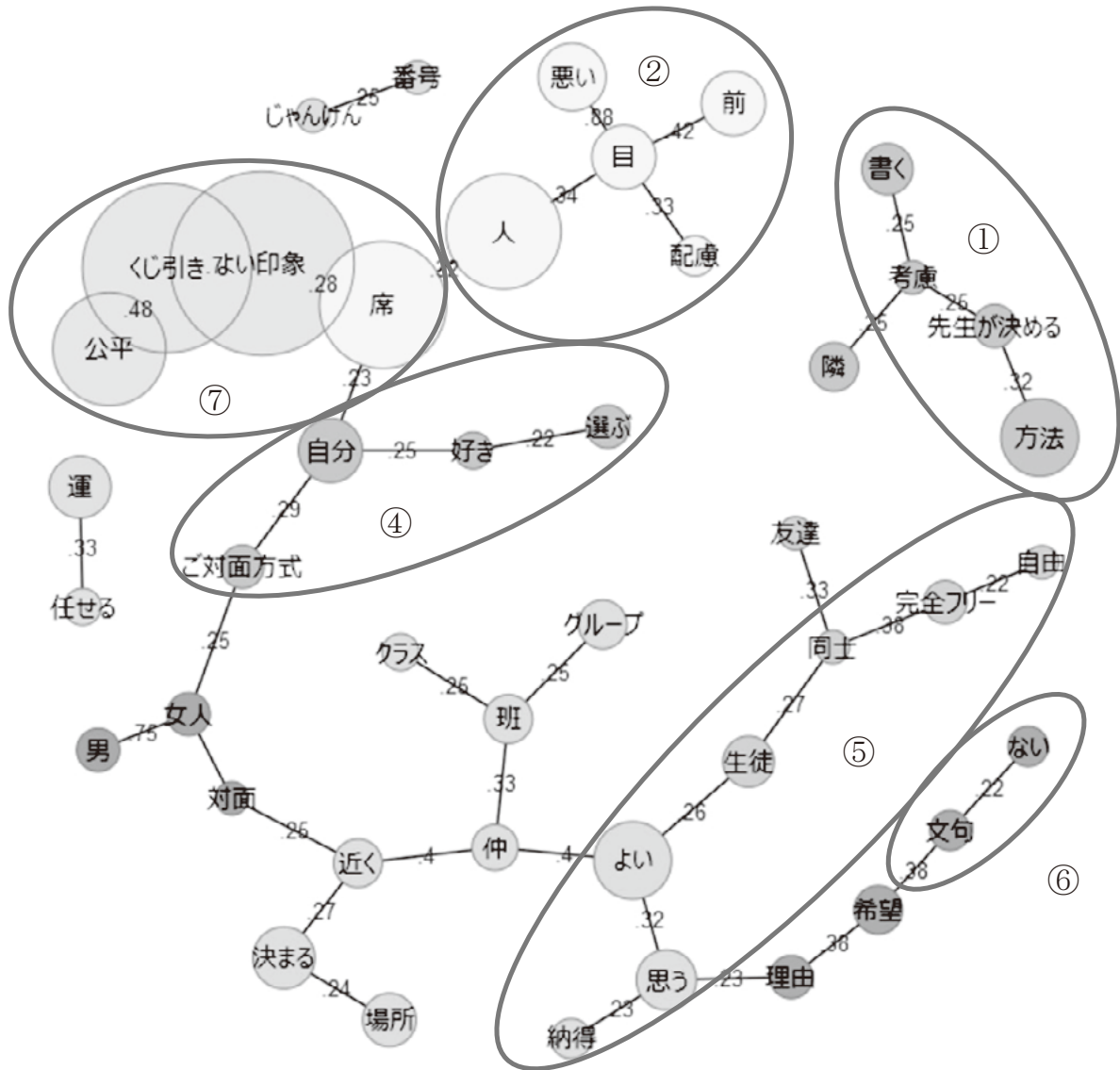


図3 「よい印象の座席の決め方」を選んだ理由

サブグラフ検出 (modularity) 数値は、Jaccard係数

言葉を取り除いた。さらに分析対象として適さない品詞（固有名詞，地名，人名）を品詞による語の取捨選択のコマンドを用いて除外した。また，テキストデータ中の類似の語を統一した。例えば，「くじ引き」「くじびき」「くじを引く」「クジ引き」「あみだくじ」等の表記は，本調査において同じ意味を持つ語であるため，「くじ引き」という語で統一した。最後に，本調査において複合語として重要な意味を持つ言葉「席」「くじ引き」「完全フリー」「出席番号順」「ご対面方式」「先生が決める」「嫌な印象」「不公平」「いじめ」を強制抽出する語として設定した。そして，共起ネットワークの分析結果は図4のようになった。次に，図4において強い共起関係（Jaccard係数 $> .20$ ）を示したもののなかから「嫌な印象であった座席の決め方を選んだ理由」として重要であると考えられる6要素を抽出した。

- ⑦ 先生が決める，完全フリー，出席番号順といった座席決めは嫌な印象である。
- ⑧ ご対面方式は，（自分がとなりになった時などに）他者から嫌な反応をされないか不安がある。
- ⑨ 不公平な感じがする。
- ⑩ 仲のよい人が，グループで固まる。
- ⑪ 好きな友達を選ぶ。
- ⑫ 人間関係や意見が反映される。
- ⑬ いじめのあるクラス。

共起ネットワークによる分析の結果、「嫌な印象」「席」「先生が決める」「完全フリー」「出席番号順」という言葉が強い共起関係を示しており、「⑦先生が決める、完全フリー、出席番号順といった座席決めは嫌な印象である」と捉えられていることが明らかになった。「先生が決める」といった方法の座席決めについての表記のある文書には、「先生の思惑がわかってしまうから」「先生の意図が働いていると思うから」「不公平な感じがするから」といった学級経営上の教員の意図に関わる要素を理由としてあげたものが最も多く、「先生が決める」座席決め嫌な印象をもっている者のうち39%を占めていた。また、「勝手に決められているという印象を受けるから」「先生に支配されている感があるから」といった自らの意思決定に関わる要素を理由としてあげた者は「先生が決める」座席決め嫌な印象をもっている者のうち35%であった。また、「ドキドキ感がなかったから」「楽しみが無くなってしまうから」といった期待感や高揚感に関わる要素を理由にあげた者は「先生が決める」座席決め嫌な印象をもっている者のうち9%であり、「不公平だから」など公平感に関わる要素を理由にあげた者は「先生が決める」座席決め嫌な印象をもっている者のうち7%であった。

また、「完全フリー」による座席決めについての表記のある文書には、「完全フリーだとはぶられてしまうことがあるため」「なかなかクラスに馴染めない人は悲しい思いをしてしまうことがあるため」「いじめが起きている際は悲惨だから」「浮いている子やいじめられていた子が最後まで一人で余っており、あまりにも可哀そうであったから」「いじめにあっていたとき、うまく話に入れなかったから」「いじめがあったクラスだったから」といったいじめに関わる要素を理由としてあげた者が最も多く、「完全フリー」による座席決め嫌な印象を持っている者のうち37%を占めていた。また、「友人関係などに気を使うから」「友達がいないとつらいから」「『ここに座ったら隣が〇〇だから、〇〇に嫌われるかな』とかネガティブな思考しか頭になかったから」といった人間関係に関わる要素が「完全フリー」による座席決め嫌な印象を持っている者のうち29%であった。また、「授業中の私語が増えるから」「うるさいグループが必ず生まれるから」といった授業秩序に関わる要素が11%、「決まらないから」「決めるのに時間がかかるから」といった時間に関わる要素が「完全フリー」による座席決め嫌な印象を持っている者のうち9%であった。

他方、「出席番号順」による座席決めについての表記のある文書には、「名字で座席を決められるのは理不尽だと思うから」「誰が前後になるか決まっているから」「自分で決めている感じがなくて不満に思ったから」といった自らの意思決定に関わる要素を理由としてあげた者が最も多く、「出席番号順」による座席決め嫌な印象を持っている者のうち65%を占めていた。また、「ドキドキ感がなくてつまらないから」「おもしろくないから」といった期待感や高揚感に関わる要素を理由としてあげた者は、「出席番号順」による座席決め嫌な印象を持っている者のうち25%を占めていた。

また、共起ネットワークによる分析の結果、「ご対面方式」「嫌」「不安」という言葉が強い共起関係を示しており、「⑧ご対面方式は、(自分がとなりになった時などに)他者から嫌な反応をされないか不安がある。」と捉えられていることが明らかになった。「ご対面方式」といった方法の座席決めについての表記のある文書には、「隣の人に嫌な顔をされたらどうしようって不安があるから」「自分が近くだった時に嫌な反応をされ、傷つくから」といった人間関係に関わる要素が多く、「ご対面方式」による座席決め嫌な印象を持っている者のうち50%を占めていた。

共起ネットワークによる分析の結果、「不公平」「感じ」という言葉が強い共起関係を示しており、「⑨不公平な感じがする」ことに嫌な印象を持っていることが明らかになった。「不公平」という表記のある文書には、「先生が決めると不公平な感じがする」「ご対面方式は、男女で示し合わせておくなどがあって不公平と思った」「完全フリーは、不公平だから嫌な印象がある」といったように、座席決めの方法に関わる要素が多く、「先生が決める」といった座席決めに関わる文書は、「不公平」という文言の表記のある文書のうち43%、「ご対面方式」といった座席決めに関わる文書は、「不公平」という文言の表記のある文書のうち29%、「完全フリー」といった座席決めに関わる文書は、「不公平」という文言の表記のある文書のうち14%、「くじ引き」といった座席決めに関わる文書は、「不公平」という文言の表記のある文書のうち14%となっていた。

また、共起ネットワークによる分析の結果、「仲」「良い」「固まる」「グループ」という言葉が強い共起関係を示しており、「⑩仲のよい人が、グループで固まる」ことに嫌な印象を持っていることが明らかになった。「固まる」という文言の表記のある文書には、「完全フリーは、仲の良いグループで固まるため」「完全フリーは、仲良い同士で固まる傾向にある」といったように、「完全フリー」といった座席決めに関連するものが多く、「固まる」という文言の表記のある文書のうち100%を占めていた。

他に、共起ネットワークによる分析の結果、「友達」「好き」「選ぶ」という言葉が強い共起関係を示しており、「⑪好きな友達を選ぶ。」ことに嫌な印象を持っていることが明らかになった。「友達」「好き」という文言の表記のある文書には、「完全フリーは、好きなお友達と近くに座っていいって、それって友達を選ばなくてはいけないし、はぶ

かれる人がいるから」「完全フリーは、(中略)好きな友達同士になっていいと言われて初めはみんな喜んだが、いじめられている人が誰ともペアを組めなかったり、仲悪い人の座席を近くにしないでほしいとある人たちが周りに言ったりしてクラスの雰囲気が悪くなった」といった「完全フリー」といった座席決めに関連するものが多く、「友達」「好き」という文言の表記のある文書のうち50%を占めていた。

また、共起ネットワークによる分析の結果、「意見」「反映」「関係」という言葉が強い共起関係を示しており、「⑫人間関係や意見が反映される」ことに嫌な印象を持っていることが明らかになった。「意見」「反映」という文言の表記のある文書には、「完全フリーは、トラブルが想像され、強く主張する人の意見が反映されがちだから」「完全フリーは、リーダー格の子どもの意見が反映されるため」といった「完全フリー」といった座席決めに関連するものが多く、「意見」「反映」という文言の表記のある文書のうち100%を占めていた。

また、共起ネットワークによる分析の結果、「いじめ」「クラス」という言葉が強い共起関係を示しており、「⑬いじめのあるクラス。」では、座席決めは非常に重大な問題であることが明らかになった。「いじめ」という文言の表記のある文書には「完全フリーはクラスで浮いている人やいじめられていた人が最後まで一人で余っており、あまりにも可哀そうであったため」「完全フリーは、いじめにあっていたとき、うまく話に入れなかったから」「完全フリーは、なかなか決まらないクラス内で、いじめが起きやすくなるため」といった「完全フリー」といった座席決めに関連するものが多く、「いじめ」という文言の表記のある文書のうち100%を占めていた。

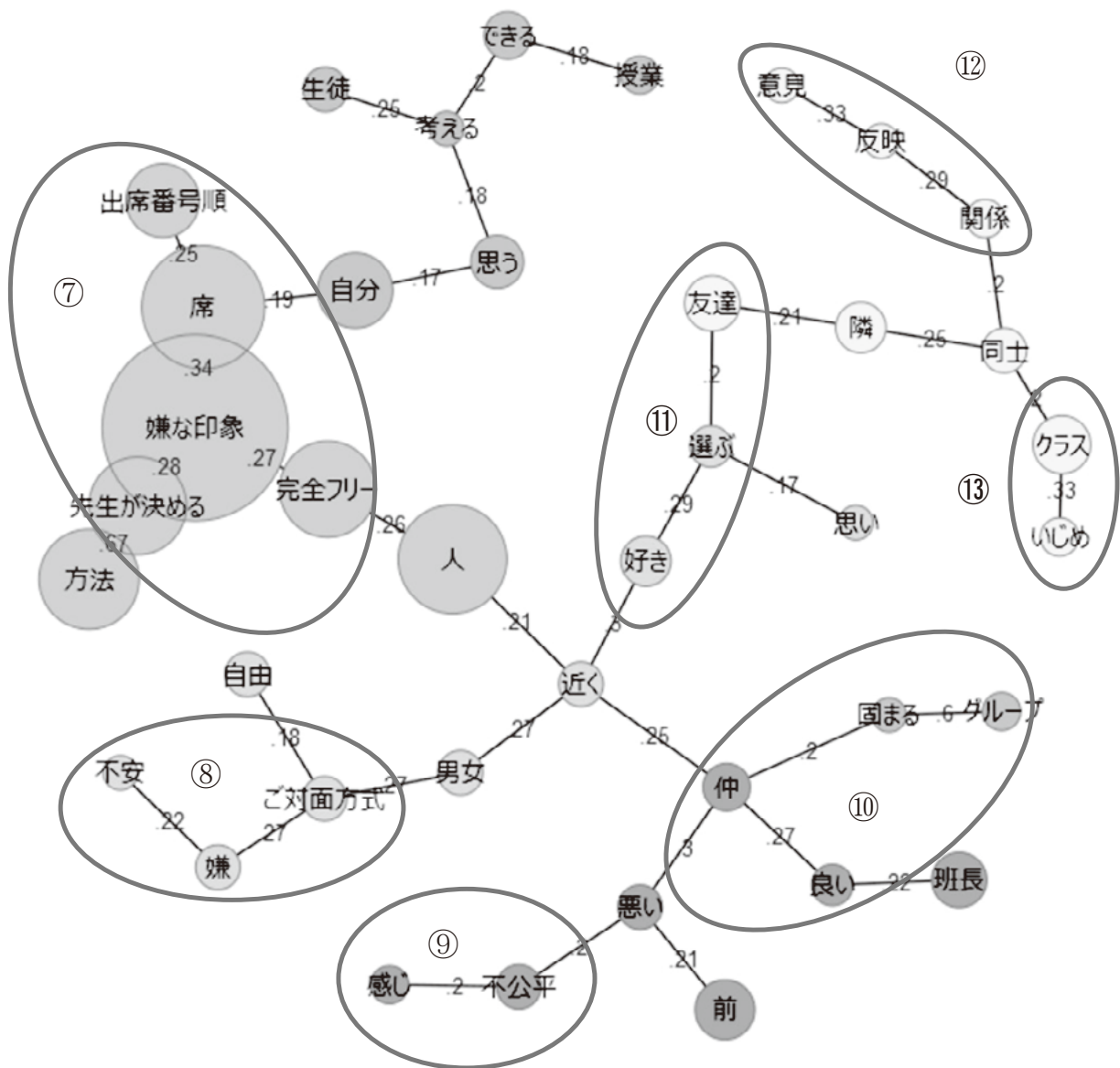


図4 「嫌な印象の座席の決め方」を選んだ理由

サブグラフ検出 (modularity) 数値は、Jaccard係数

4 考察

(1) よい印象の座席決めと嫌な印象の座席決め

本研究の結果、よい印象の座席決めの方法、嫌な印象の座席決めの方法には相違があり、「くじ引き」といった座席決めの方法により印象をもつ学生が多く、「先生が決める」「完全フリー」「出席番号順」といった座席決めの方法に嫌な印象をもつ学生が多いことが明らかになった。また、これらの相違について性別による違いは認められなかったことから、座席決めの仕方に関する印象に性差はないと考えられる。

(2) よい印象の座席決めの方法を選んだ理由

よい印象の座席決めについては、公平性と関連させて「くじ引き」といった座席決めの方法を支持する学生の割合が高いことが確認できた。また、割合的には支持者は少なかったが「先生が決める」といった方法についても、教員の意図や完全性に関わる要素を公平性とつなげて捉えていると考えられ、学生は公平性の担保が座席決めにとって重要なものと捉えていることが考えられる。

一方、割合的には支持者は少なかった「ご対面方式」といった方法により印象を持っている理由については、自分で座席を決められるといった自らの意思決定に関わる要素、自分の座席の周りが誰になるかといった期待感や高揚感に関わる要素をあげており、「完全フリー」といった方法についても自らの意思決定に関わる要素やみんなで話し合って決めるといった話し合い活動による調整的要素が挙げられており、学生自身の意思決定が座席決めにとって重要なものと捉えていることが考えられる。

(3) 嫌な印象の座席決めの方法を選んだ理由

嫌な印象の座席決めについては、自分で座席を決められないといった自らの意思決定に関わる要素や自分の座席の周りが誰になるかといったワクワク感やドキドキ感得られないといった期待感や高揚感に関わる要素と関連させて、「先生が決める」「出席番号順」といった座席決めの方法に嫌な印象をもつ学生の割合が高いことが確認できた。また、「先生が決める」といった座席決めについては、人間関係等を考慮した教員の学級経営上の意図が見え隠れすることから不公平感をもち、嫌な印象をもつ学生の割合が高くなったと考えられる。

他方、「完全フリー」といった座席決めの方法については、いじめを受けている者が悲しい思いをしたり、最後まで座席が決まらないなど、いじめに関わる要素と関連させて嫌な印象をもつ学生の割合が高くなっていることが考えられる。また、直接いじめとは関係はないが、友人関係などへの気遣いや周りの人間が自分をどう見ているかなどの人間関係に関わる要素も嫌な印象の大きな理由の一つとなっている。また、授業中のおしゃべりが増えるなどの授業秩序に関わる要素、座席を決定するまでに長い時間を要すといった時間に関わる要素もあり、学級の雰囲気をつくる上で難しい側面があることも嫌な印象の理由の一つとなっている。これは「完全フリー」といった座席決めの方法そのものが、いじめを助長したり、人間関係からのストレスがかかりやすい特徴を持っているものと考えられる。

(4) まとめと今後の課題

本研究の結果、小・中・高等学校における座席決めのデリケートさ、またその難しさが明らかになった。例えば、公平性が高いということからよい印象の座席決めの仕方と考える学生が70%であった「くじ引き」による座席決めであっても、嫌な印象の座席決めの仕方と考える学生が8%おり、すべての児童・生徒がよい印象をもてるような座席決めの仕方を考えることは難しいと考えられる。

また、教員が座席を決める場合、出席番号順などの座席決めの仕方は自らの意思決定ができないことから、これを嫌う傾向がある一方で、児童・生徒の意思決定を尊重し、完全フリーとした場合であっても、いじめを助長したり、人間関係のネガティブな側面に対するストレスがかかるなど、嫌な印象をもつ学生も少なくない。

しかしながら、座席替えは多くの児童・生徒が楽しみにしており、学習環境に変化を与える意味でも一定の効果があるものと考えられる。ある学生が「どのような座席決めの方法であっても『あなたの居場所はここです』といった正当な理由が担保されれば、いじめられても戦える」と述べていた。学校はこの言葉の意味を十分に理解し、一人一人の児童・生徒が、公平性と自分の居場所を実感できる座席決めの在り方を、状況に応じて工夫し続けることが重要と考える。

引用文献

- 坂野重法（2011）．坂野重法（編）学級生活指導の基礎スキル3 座席の決め方の法則 全員に配慮した工夫 明治図書
- 金子謙太郎（2009）．ルールを生かした学級集団の育成：日々のグループ活動と係活動の活性化から 教育実践研究, 19, 171-176.
- 仙台市教育委員会（2015）．学級担任のための生徒指導ハンドブック 仙台市教育委員会
- 晶文社学校案内編集部（2017）．大学受験案内2018年度用 晶文社
- 田原朋子（2006）．望ましい人間関係とルールマナーの定着を目指した学級集団の育成－学年での共通実践・人間関係のスキル定着を目指した実践から－ 教育実践研究, 16, 131-136.
- 和歌山県教育委員会（2016）．みんな生き生き！学級集団づくり 和歌山県教育庁学校教育局義務教育課
- 山口創・鈴木晶夫（1996）．座席配置が気分にあはす効果に関する実験的研究 実験社会心理学研究, 36(2), 219-229.

¹共起ネットワークとは、テキストマイニングソフト「KH Coder」によって、文書を特徴づける語同士の共起関係を表したネットワーク図である。

Desirable Methods of Deciding Seating Arrangement at Elementary and Junior and Senior High Schools

Tomoyuki YAMADA*

ABSTRACT

Desirable methods of deciding seating arrangements in elementary schools and junior and senior high schools were investigated. A retrospective online survey was conducted with undergraduate and graduate students. The results indicated that students wanted fairness to be ensured in deciding the seating arrangement. Therefore, they considered drawing lots to be appropriate. They also disliked methods that prevented them from deciding the seating arrangement. Deciding seating arrangements in schools is considered to be difficult. Therefore, methods that provide students with a sense of fairness and a sense of their own place in the classroom are important when deciding the seating arrangement of classrooms.

KEY WORDS : Desirable Methods of Deciding Seating, Fairness

* School of Education